

○水産業強化支援事業事後評価報告書(令和5年度が目標年度のもの)

事業実施年度	目標年度	事業実施主体	事業計画の内容
※今年度の対象事業はなし			

令和2年度に実施した事業の事後評価結果(令和5年度が目標年度のもの)

○水産業競争力強化緊急施設整備事業事後評価報告書

事業実施年度	目標年度	事業実施主体	事業計画の内容
令和元年度(繰)	令和5年度	紀北町	小規模漁場施設(つきいそ)620㎡の整備
令和元年度(繰)	令和5年度	御浜町	小規模漁場施設(つきいそ)1720㎡の整備

		紀北町農林水産課		
目的	浜の活力再生広域プランの基本方針の一つである水産資源の維持・回復と持続的利用をより一層推進していくために、刺網漁業の重要な漁獲対象であるイセエビの好適な生息場および漁場となるつきいそを紀北町白浦地区をはじめとする県南部地域で一体的に整備することで、地域としての収益性を高め、経営体質・競争力強化につなげること。			
目標	水産業競争力強化	整理番号	1-1	
事業実施主体	紀北町			
実施地区	白浦地区			
実施期間及び目標年度	実施期間	目標年度		
	令和2年度	令和5年度		
助成金額	2,797,000円			
事業計画の内容	小規模漁場施設(つきいそ)620㎡の整備			
評価	取り組みの目標(KPI)	漁業所得の向上		
	基準年	(令和2年度時点) 1,097千円		
	現状値	(令和5年度末時点) 749千円	増加率	△31.72%
	目標値	(令和5年度末) 1,237千円	増加率	12.76%
	成果目標	イセエビ漁獲金額の増加(3ヵ年)		
	現状値	(令和5年度末時点) 6,818千円/3年		
	目標値	(令和5年度末) 10,312千円/3年		
	(1) 現状値の説明	<p>○取り組みの目標(KPI) 現状の3ヵ年(R3~R5)平均の漁業所得 平均漁獲量×平均魚価×所得率 =535kg×4,245×0.33(※) =749,455円 ※所得率は三重外湾漁業協同組合に聞き取り</p> <p>○成果目標 現状の3ヵ年のイセエビ漁獲金額 =イセエビ漁獲金額(R3)+イセエビ漁獲金額(R4)+イセエビ漁獲金額(R5) =2,371,470円+2,630,378円+1,815,668円 =6,817,516円</p>		
	(2) 地域への経済効果	イセエビの地元漁港への水揚げが増えることで、地元民宿業者や飲食業者への提供が増え、地域への経済効果につながっている。しかし、目標の漁獲金額が10,311,648円に対して現状値は6,817,516円と目標を下回っているため、地域への経済効果も想定より少ないと考えられる。		
	(3) 所見	近年、水揚げ量及び漁獲金額が減少傾向にある。その理由として、黒潮大蛇行の継続による海水温の上昇に伴う、食害生物による摂食行動の長期化により、イセエビの生息場所である藻場が減少し、資源量も減少したと考えられる。また、漁業者数の減少や燃料高騰による漁の回数の減少なども水揚げ量減少の要因と考えられる。		
(4) 評価機関の意見等	(評価機関等の評価を受けた場合に記入)			
今後の改善方向等に関する分析	イセエビの生息場所である藻場を増やすため、藻場再生の活動を継続する。また、現在残っている藻場を守っていくことで、イセエビ資源の増加を目指す。			

				御浜町		
目的	浜の活力再生広域プランの基本方針の一つである水産資源の維持・回復と持続的利用をより一層推進していくために、刺網漁業の重要な漁獲対象であるイセエビの好適な生息場および漁場となるつきいそを御浜町阿田和地区をはじめとする県南部地域で一体的に整備することで、地域としての収益性を高め、経営体質・競争力強化につなげること。					
目標	水産業競争力強化	整理番号 1-2				
事業実施主体	御浜町					
実施地区	阿田和地区					
実施期間及び目標年度	実施期間		目標年度			
	令和2年度		令和5年度			
助成金額	8,500,000円					
事業計画の内容	小規模漁場施設(つきいそ)1,720㎡の整備					
評価	取り組みの目標(KPI)	漁業所得の向上				
		基準年	(令和元年度時点) 13,182千円			
		現状値	(令和5年度末時点) 6,565千円	増加率	△50.2%	
		目標値	(令和5年度末) 14,885千円	増加率	12.9%	
	成果目標	イセエビ漁獲金額の増加(3ヵ年)				
		現状値	(令和5年度末時点) 29,620千円/3年			
		目標値	(令和5年度末) 70,430千円/3年			
	(1) 現状値の説明	<p>○取り組みの目標(KPI) 現状の3ヵ年(R3~R5)平均の漁業所得 平均漁獲量×平均魚価×所得率 =1,679kg × 5,880 × 0.665(※) =6,565,225円 ※所得率は紀南漁協への聞き取り</p> <p>○成果目標 現状の3ヵ年のイセエビ漁獲金額 R3漁獲金額(9,724,185円)+R4漁獲金額(8,409,060円)+R5漁獲金額(11,486,631円) =29,619,876円</p>				
	(2) 地域への経済効果	<p>イセエビの漁場造成によって漁獲量の増加および漁業所得の向上を目指した。しかし、漁場面積の縮小および単価の低迷により漁獲量が減少し、漁業所得も減少した。 ただし、つきいその造成がなければ、漁獲量および漁獲金額はさらに減少したと推測されるため、一定の漁業所得が確保されたと考えられる。</p> <p>つきいその施設管理規定を定め、管理漁場としてイセエビの資源管理に努めている。つきいそ整備に伴い、令和2年には操業ルールの見直し[1月の全面禁漁、出荷可能サイズの引き上げ(100g→150g)]を行っており、漁業者として出来る限り水揚げ金額の向上に取り組んでいる。</p>				
	(3) 所見	<p>成果目標の未達を招いた漁獲金額減少の原因として以下の3点が挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・降雨のたびに熊野川から流出する土砂の影響が大きく、堆積土砂によって漁場面積が当初計画時より減少し、漁獲量の減少を招いた点。 ・平成29年以降の黒潮大蛇行の影響で、イセエビ幼生の着底場所や稚エビの生育場所である藻場が衰退し、資源量および漁獲量が減少した点。 ・新型コロナウイルスの流行が想定よりも長く続き、全国的な消費低迷で出漁を見合わせる者や出漁日数が減少したため、漁獲量が減少した点。 				
(4) 評価機関の意見等	(評価機関等の評価を受けた場合に記入)					
今後の改善方向等に関する分析	・規定体長を下回るイセエビや抱卵しているイセエビの放流を継続することで長期的な漁獲量の増大を図る。					